

株式会社乾レンズ

小さい頃から家の中に職人が出入りし、レンズを研磨する姿を見て育ちました。家の離れには工場という環境で、家業を継がないという選択は私の中にはありませんでしたね。アメリカで2年半、勉強した後、貿易会社で勤務。その後、フェイスオプティックというフレーム製造会社を立ち上げ、代表に就任しましたが、サングラスでトップを目指すにはレンズの技術が必要だと考え、乾レンズに入社しました。

日本におけるサングラスは、濃い色のレンズが主流で、夏の強い日差しなどをカットするために使われることが多いと思います。ちょいワルというようなイメージもつきまといまいます。そんな先入観を壊したいと思っています。当社の【オールタイムサングラス】は、レンズが透明もしくは薄い色で、サングラスに抵抗がある人でもかけやすいもの。発売当初は、クリアなレンズで紫外線をカットできるのか?と半信半疑で、市場に受け入れてもらえませんでした。クリアレンズでも紫外線をカットできることを、日本の中で啓蒙していく必要があります。

日本は作る技術があり、製品も素晴らしい。反面、PRが下手で、ブランディングも下手です。技術やものづくりに対する情熱はあるのに、世界市場で日本のサングラスが受け入れられていないのが残念。だからこそ、日本純正のサングラスで、世界相手に勝負したいですね。

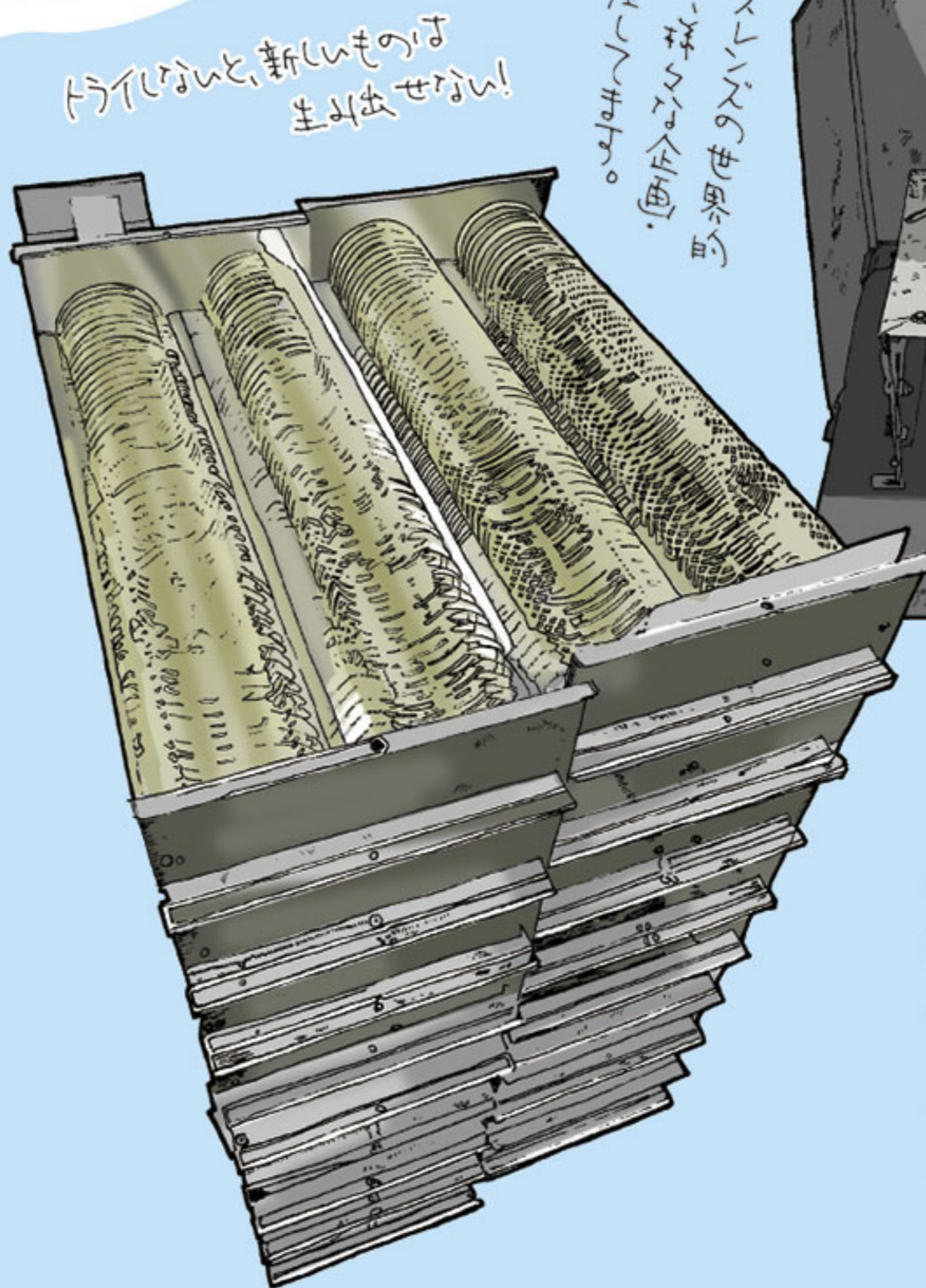
代表取締役

乾 喜則さん



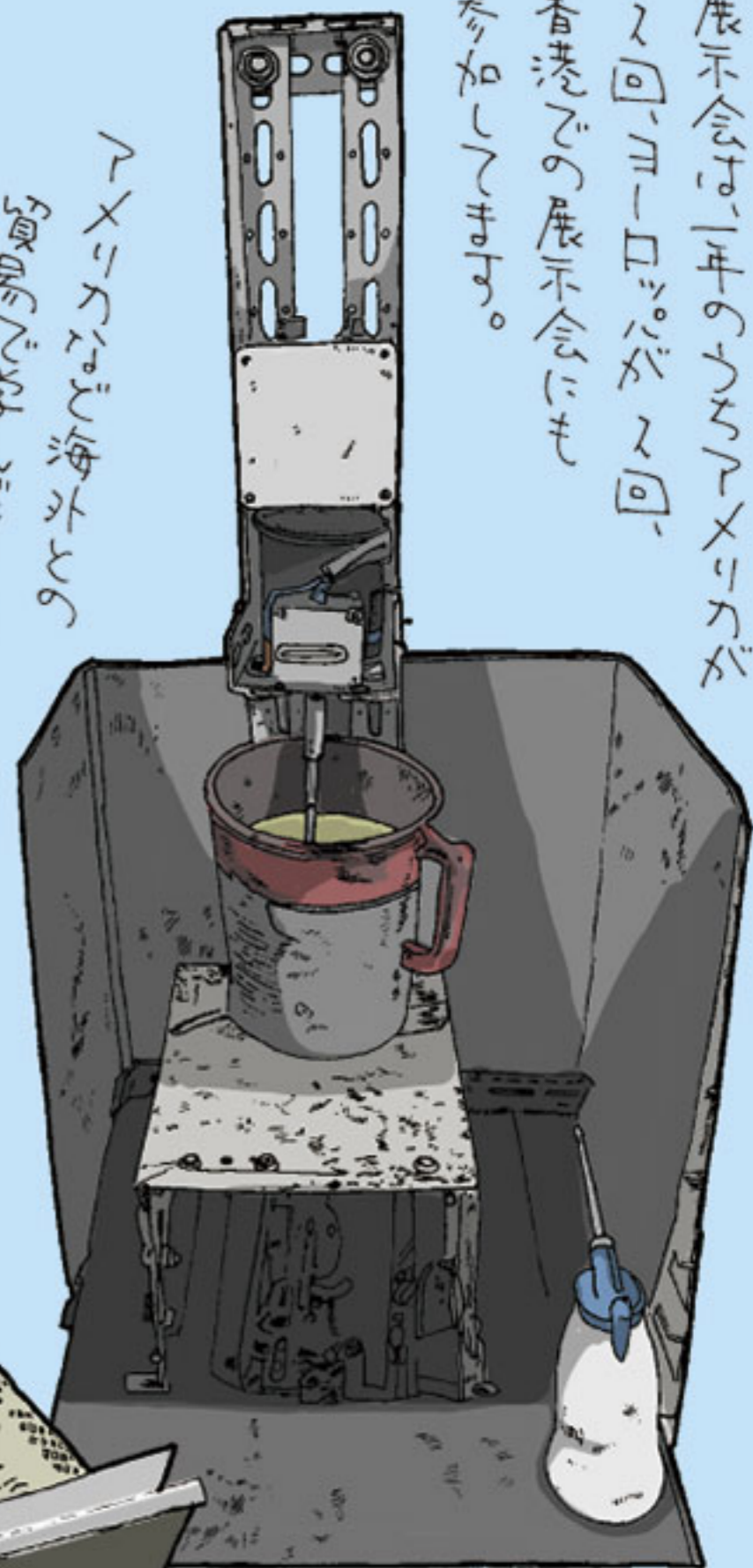
サングラスは遊び心がないと、いけない。目の保護に加え、そこからどういったプラス要素を出せるかなんです。

日本の高い技術力にブランディングを加え
世界に通用するサングラスを作りたい



古いものと、新しいものは
生み出せない!

アメリカと海外との
規格をベースに作る(西川)
高品質なサングラスを作る。



展示会は、一年のうちアメリカが
2回、ヨーロッパが2回、
香港での展示会にも
参加しています。

もともとガラスレンズから始まり、プラスチックレンズに移行したのがうちの強みです。ガラス研磨で培った技術を用い、プラスチックでも薄くて軽いレンズの製造を行っています。

昭和28年の創業から変わらず続く サングラスレンズの専門会社

眼鏡レンズ発祥の地である生野区には、明治から昭和初期にかけて、レンズ研磨に関わる会社は何百社もあった。当時の主な取引先はアメリカで、何万ダースという大量注文をこなしていたとか。しかし、世界経済が円高になると取引が激減し、廃業する企業が続出。このような状況にも左右されず、乾レンズが安定して事業を継続しているのは、価格勝負ではない高い技術でのレンズ製造を行っているからだ。同社は生野のレンズ製造においては後発だったため、地元のレンズ産業組合に加入することができなかった。そのため、自身で取引先を開拓していたところ、今や世界的なめがねの産地として知られる福井県・鯖江市の企業から依頼が来る。「ほとんどの企業が海外にレンズを輸出してしまうため、国内のめがねメーカーが困っている」とのこと。現在でも、生野区にある本社は工場を併設し、営業とレンズ製造と検品、出荷を担当し、鯖江ではレンズ加工業務を担当。鯖江の多くの会社と取引し、クオリティの高いレンズを提供。その評判が世界へと広がり、現在では国内にとどまらず、海外からの依頼も殺到している。

同社の主力商品に、【オールタイムサングラス】というものがある。名前のとおり、朝から夜まで、眼鏡感覚で日常的に使ってもらうことを前提に作られている。このサングラスに採用されているのが、HYDE（ハイド）レンズだ。ハイドレンズとは、目に有害とされる紫外線を99%以上カットし、加えて、人の目にまぶしいと感じやすい青色の光も独自のコーティング技術でカットするもの。2010年には、特許を取得している。目にやさしく、まぶしさをカットするというサングラス本来の機能を追求し続けた結果が、どこにもないハイクオリティなサングラスレンズを作り続けられる理由のようだ。

株式会社 乾レンズ

http://www.inuilens.com/
〒541-0011 大阪市生野区田島6-17-3
TEL 06-6758-1805 FAX 06-6758-1822
事業内容 / OEMを中心としたサングラスレンズの企画、生産、販売



若手は、どんどんサングラスでも
似合っし、高齢者には、クリア
レンズのサングラスをかけることも
あります。



レンズの厚みは、紫外線カットに
関係しないんです。
うちのレンズは、確実に紫外線を
カットできます！

**我が社の
自慢** 有名ブランドや人気の
アウトドアブランドから
サングラスレンズの依頼が！

レンズ加工の技術の高さを聞いたブランドのデザイナーから、思い描いたレンズ製造依頼が来ることもたびたび。特殊なレンズにも応えることができる、同社の技術力が、海外でも評判を呼んでいる。

遊んで用のレンズや実用性の高いものまで、デザイナーが試せば
すぐに作りまよ。その海外の展示会や商談にもって
いんです。海外のレンズの考え方は日本とは異なる、
ユニークなデザイン性も支持される。

今までにないもの、おもしろいものを作ることも大切です。
例えば、ミラーレンズだけでなく、キラキラ光らずマットな
輝きのマットミラーを製造。スタートしてから5年を駆け
上がり上げました。



主には、サングラスのレンズだけ、サングラスレンズは
ありません。ガラスはキズなどに耐え性はあります。
割れる、壊れる以外は、サングラスのレンズには耐えています。